

世界湖沼会議に関する要望と質問

茨城県知事 大井川 和彦 様

2018年2月13日

NPO 法人アサザ基金

代表理事 飯島 博

わたしたちは、10月に開催される第17回世界湖沼会議において、原子力災害と湖沼、水環境をテーマとした議論の場を設けるよう要望をしてきました。

昨年3月9日付けの茨城県からの回答書では、「原子力災害と湖沼をテーマにしたセッション等については、主催団体のひとつである（公財）国際湖沼環境委員会とも十分協議するとともに、今後立ち上げます企画推進委員会等において、取り扱いについて検討してまいります。なお、「放射性物質」については、一つの分科会のキーワードに明示する方向で議論しております。」という回答をいただきました。

ところが、発表された第17回世界湖沼会議の開催案内には、原子力災害と湖沼についての記述は一切無く、「放射性物質については、一つの分科会のキーワードに明示する方向で議論しております」（同回答書）にあったにも関わらず放射性物質というキーワードは見られません。

会議開催の案内では、分科会の概要とテーマの第2分科会「淡水資源の確保」にキーワードとして「化学物質による汚染（農薬、重金属）」とあり、放射性物質は明記されていません。

前回の要望書（2017年2月13日付）で指摘したとおり、2011年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原発の放射能漏れ事故については、世界中に衝撃が広がり、世界中の人々がその後の経緯を注視してきました。原発事故の影響が、霞ヶ浦をはじめ東日本の湖沼にも影響を及ぼしたことは周知の事実です。

今回の世界湖沼会議は、未曾有の原発事故の影響を受けた地域での水環境に関する初めての会議の開催となります。本来ならば、「原発事故と湖沼環境保全」がメインテーマになってもおかしくはない状況であると考えます。

今回の湖沼会議において、原子力災害と湖沼といった文言が一切無く、放射

性物質といったキーワードさえ見られないとしたら、かえって不自然に見え、都合が悪いことがあるから意図的に議論を避けたのではないかと解釈されてしまう恐れはないでしょうか。

私達は、今年１０月に霞ヶ浦で開催される世界湖沼会議について、以下の質問と要望をいたします。

（質問１）わたしたちは、今回の世界湖沼会議において「原子力災害と湖沼環境」についての発表を考えていますが、先述したように現在のところ募集要項等を見ても該当するセッションが見当たりません。キーワードとして挙げられている「化学物質による汚染」にも（農薬、重金属）と明記され「放射性物質」は外されています。わたしたちが上記のような内容の発表応募をした場合採用される可能性はあるのでしょうか。

（要望１）霞ヶ浦をはじめ東日本の湖沼や河川等の水環境に原発事故が及ぼした影響や今回講じられた対策、見えてきた課題等について、各国の湖沼関係者等と議論する、原子力災害と湖沼環境をメインテーマにしたシンポジウムやセッションを、第１７回世界湖沼会議内に設けてください。

上記の（質問１）及び（要望１）について、２０１８年３月１３日までに文書にてご回答ください。

NPO 法人アサザ基金 〒３００-１２２２ 牛久市南 ３-４-２１
電話 ０２９-８７１-７１６６
E-mail asaza@jcom.home.ne.jp